



電気学会 IEEJ プロフェッショナル アクションレポート
2010年7月・第15号

IEEJ プロフェッショナルニュース

ニュース1. IEEJ プロフェッショナル第23回懇談会 (メモ)

1. 日時 平成22年4月20日(水) 15時～17時30分
2. 場所 電気学会会議室
出席者 14名
3. 講演 深川裕正氏「研究は思索、技術は思想—今後の電力技術動向を探る—」
 - (1) 電力中央研究所の概要、業務内容の変遷(電力ケーブル屋、研究、管理職等)、ケーブルに関する研究(超高压電力ケーブル、ケーブル試験評価、課題解決等)電力技術の変遷と現状、将来の電力技術(夢を語ろう)(地球温暖化問題の解決、スマートグリッドの光と影、交流から直流へ、新技術への期待)、問題提起(COP15の失敗、考え方の融合こそ大切、マクロ的考えが欠落、電気学会は社会へもっと提言を)等の講演であった。
 - (2) 日本の技術は先に行きすぎている。日本は縮こまっている、若い人を元気にすることが大切。日本は高コスト体質。エネルギー、情報共通のネットワークが必要である。日本は全体を捕らえるのがへたである。教育は下からやっていく必要がある。海外に売っていくことが必要である。等の質疑応答があった。
4. 議事
 - 4.1 理科支援に関するこの2ヶ月間の経緯が伊藤幹事長から説明された。理科支援体制については各種問題があるとの指摘をIEEPプロフェッショナルから電気学会に行った結果、教育支援部会に理科支援検討WGができることになった。WGで理科支援今後の進め方をまとめる。また、平成22年度に予算が認められたので理科支援の過去の実績をまとめる。WG委員として関井康雄、植田正紀、武子雅一の3氏が推薦された。なお、WG主査として教育支援部会で伊藤二郎氏が指名されている。
 - 4.2 武蔵村山市の理科支援事業は今年度も行われる予定である。実施を希望している福生市については今年度はない。



ニュース 2. IEEJプロフェッショナル第24回懇談会 (メモ)

1. 日時 平成22年5月28日(火) 13時20分～17時30分

2. 場所 高柳記念未来技術創造館、静岡大学電子工学研究所
出席者 15名

3. 見学内容

高柳記念未来技術創造館、静岡大学電子工学研究所の見学及び講演内容は次の通りであった。

(1) 高柳記念未来技術創造館見学

ア. 高柳先生テレビジョン関連開発品

イ. 放電光発光実験機、ニポー円盤レーザーテレビ実験機、色合わせ実体験機

ウ. 初期の頃からのテレビジョン

エ. 語録

a. 天分に生きる (人にはそれぞれ才能があり、それを生かし、世の中のためになるような人間として生きること。)

b. 人工天才 (1つの目的に結集した多人数の知恵は、天才的な力を発揮する)

c. よい科学者・技術者である前によい人間であれ。(工業に携わる者は、人間として優れていることが大切。生活に役立ち、世の中を良くする任務を持っているからです。)

(2) 静岡大学電子工学研究所見学

(3) 三村所長講演「高柳健次郎教授活躍の歴史」

ア. 1924年5月浜松高等工学校助教授。高柳氏無線遠視法の研究を始める。

イ. 先見性の大切さ。今はやっていることをやっちはいけない。20年後に大切になる技術を見出してこつこつ勉強する。幸運は追いかけても捕まえないが、前から前髪をつかめば捕らえられる。

ウ. 1925年ラジオが放送開始された。

エ. 1923年頃フランスではテレビジョンと呼ばれ、外国では実験段階であった。

オ. 世界ではすべて機械式であった。高精密な絵を写すことはできない。機械式は猿、電子式は人間である。

カ. 撮像、受像とも電子ビームを用いる。機械的撮像方式へ一時的に転換。

(電子式は、送信側が画像を走査線という単位に分解、単位毎に明暗情報を電気信号に変え、送信。受信側は電気信号を再び明暗情報に変え、画像を再現する。)

キ. 1926年同期方式の発明

ク. 1926年12月25日ニポー円盤と光電管、ブラウン管を使ったテレビジョンを開発し、「イ」の一字を映し出すことに成功した。電子式テレビジョンの世界最初の実験であった。

ケ. 1929年高真空、多段電極ブラウン管発明

コ. 1930年5月昭和天皇天覧。研究として認められる。

サ. 1930年広帯域増幅器の発明。撮像方式の再開。積分方式発明。

シ. 1933年アノコノスコープ方式の発明者、RCAツヴォルキン博士を訪問



- ス. 1935年浜松式アノコノスコープによる撮像方式を開発。
- セ. 1936年2月全電子式テレビジョンの完成。
- ソ. 1937年NHKへ出向。1940年オリンピックの放送自動車の完成。

ニュース 3. IEEJプロフェッショナル第25回懇談会 (メモ)

1. 日時 平成22年6月15日(水) 15時～17時45分
2. 場所 電気学会会議室
出席者 14名
3. 講演 小山 徹氏「産業遺産と産業考古学—その社会的意義を考える—」
 - (1) 産業考古学の誕生、産業考古学会の発足、産業遺産の社会的意義(ヒトは人工環境を造り産業遺産を残す)、産業考古学と技術博物館(産業遺産の保存と研究、産業考古学のための博物館)、その例として明治村とスカンセンの比較、VASA博物館(17C木造軍艦)、ニュージーランドの野外博物館(電車)、エンゲルスベルイ製鉄所(世界遺産)、碓氷アプト線現地保存を挙げ、社会の記憶としての戦争遺跡・その博物館化の必要性(原爆ドームと被爆電車)の講演であった。
 - (2) 質疑応答
産業考古学はいい発想である。子供が持つ楽しさ・興味を仕事につなげ、子供達の志を育てるという思想がない。高柳氏の仕事には志しが見える。日本ではものが暮らしを支えていることが教えられていない。工学から働きかけていく必要がある。技術倫理に加え、先輩を見習う必要がある。などの意見があった。
4. 議事
 4. 1 第1回理科支検討WGの結果が紹介された。支部等でも理科教室が開催されている。電気学会としての方針がわからないところがあるとの意見があった。
5. 今後の行事
 5. 1 第26回懇談会
 - (1) 日時 平成22年7月15日(木) 15時～17時
 - (2) 場所 都立産業技術研究センター
 - (3) 講演 都立産業技術研究センター幹部
「新・都立産業技術研究センターの概要」
 - (4) 議事 共催講演会の進め方
 5. 2 第2回総会
 - (1) 日時 平成22年8月31日(火) 16時～19時
 - (2) 場所 鉄鋼会館
 - (3) 講演 藤本孝(電気学会会長)



5. 3 第 27 回懇談会

- (1) 日時 平成 22 年 9 月 16 日 (木) 15 時～17 時
- (2) 場所 電気学会会議室
- (3) 討論 「(仮) 技術教育のあり方」

5. 4 第 28 回懇談会

- (1) 日時 平成 22 年 10 月 19 日 (火) 15 時～17 時
- (2) 場所 電気学会会議室
- (3) 講演 羽片日出夫 「鉄鋼に対する電動力の適用」

5. 5 第 29 回懇談会 (見学会)

- (1) 日時 平成 22 年 11 月 18 日 (木) 15 時～17 時
- (2) 場所 未定

事務局からのお知らせ

IEEJ プロフェッショナルに役に立つセミナー情報や大学・学校・教育委員会などで IEEJ プロフェッショナルの人たちが活躍できるお話がありましたらお知らせ下さい。

なお、アクションレポートの更新は定期的に行います。

連絡先：社団法人電気学会 技術者教育課：吉澤 純一

E-mail : yoshizawa@iee.or.jp 電話 : 03-3221-3710